

中高生が社会参加
できる仕組みとは？

未来を描く！創る！
イノベーティブな
生徒たち

第2回

社会問題に関心を持った中高生が 実社会で活動できるように支援

ゆうじん
山口由人さん・高校2年生

東京都・私立聖学院中学校・高校

東 京都・私立聖学院中学校・高校では、6年間を通して、生徒が主体の探究・PBL型の学習活動に力を注ぐ。そうした学びの中で、生徒は社会問題に向き合う意義に気づき、その解決に向けたプロセスを身につけていく。中には自主的に校外での社会貢献活動に取り組んだり、在学中に起業したりする生徒もいる。

山口由人さんは、2020年、一般社団法人「Sustainable Game」を設立。SDGs（*）の実現に向けて中高生が活動する仕組みづくりに取り組んでいる。

「社会問題に関心を持った中高生が、企業の人など、様々な大人たちと一緒に、問題解決のために活動できるように支援する団体を中学3年生の時に立ち上げました」

山口さんは、小学校までをドイツで過ごした。その頃の体験が、中学2年生の時に授業で学んだSDGsと結びつき、社会問題に興味を持つようになった。

「ドイツでは、自分はマイノリティーである外国人でしたから、疎外感を味わいましたし、難民差別に

* Sustainable Development Goals の略。2015年に国連が掲げた、持続可能な開発目標のこと。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、17の目標と169のターゲットから成る。

教師たち



東京都・私立
聖学院中学校・高校
高校2学年主任
山本 享

各々にふさわしい時機に、 社会とつながる支援を

生徒の成長スピードは様々ですから、それぞれに適したタイミングで社会とつながってほしいという思いを持って、探究・PBL型の学習では、社会問題を積極的に扱ったり、外部イベントを紹介したりしています。山口さんは元々問題意識が強く、行動力があるために、早い段階で心に火がともったのでしょう。当初は、外部のファシリテーターを紹介するなどが、校外とつなげる支援をしましたが、今は山口さん自身で校内外に仲間をどんどん増やし、活動を充実させています。以前、山口さんが私に、「国語や歴史、英語など、学校で広く学ぶ意味が分かった」と話してくれたことがあります。校内外での様々な経験を通じて、学びの本質を理解したのだと思いました。「社会をよくしたい」という思いに支えられ、大きく伸びていく生徒たちの姿から、社会とつながる学びの意義を再認識しています。

対して何も行動できなかったことなどに、ずっとモヤモヤした気持ちを抱えていました。授業でSDGsを学び、自分にも具体的な行動が起せるのではないかと、活動を通して社会や大人とつながることができたら楽しそうだと考えたことを考えるようになりました」

その後、教師に紹介されたSDGs関連の外部イベントに積極的に参加をした山口さんは、自らが主体となって、さらなる一歩を踏み出した。社会問題に関心の高い先輩たちに声をかけ、「課題発見DAY」という教育プログラムを考案し、高校生向けのイベントとして実施したのだ。「ルーレットでSDGsの17の目

標から1つの目標を選び、その目標を意識して街を歩き、発見した課題を発表し合うというプログラムです。社会問題の解決を、持続可能な未来をつくるゲームと捉えることで、中高生が『自分たちの力でクリアしよう』と、社会問題の解決に挑戦したくなるのではないかと考えたのです。ポスターを作って校外から参加者を募ったり、企業に頼んで会場を借りたりしながら、月1回『課題発見DAY』を実施しました」

企業と連携しながら、中高生が大人とともに社会問題を解決するための仕組みづくりに取り組んできた山口さんだが、その過程で壁にぶつかることもあった。特に、中

高生の話を実剣に聞いてくれない企業が多かったことには悩まされた。「『社会をよくしたい』という思いを伝えるだけでは、相手を説得できないことを痛感しました。他者を動かすためには、社会問題の背景を理解する上で必要な幅広い知識や、活動を行う理由や根拠を分かりやすく説明する力などが求められます。学校で様々な教科を学ぶ意義は、その点にあるのだと思いました」

中高生と大人が一緒に社会問題の解決に挑むのが、あたり前の社会をつくりたい。社会をよりよくしたいというその思いは同じなのだから――。変わらぬ理想を抱き、山口さんは今、中高生による社会問題解

決の取り組みと、そうした中高生の活動に対する支援を希望する企業や団体とをマッチングさせるウェブサイトの開発を進めている。

「これまでの活動を通して、地域や社会でイノベーションを起こした国内外の同世代の人たちとつながることができましたが、そうした仲間と切磋琢磨する中で、自分も『社会のここを変えた』と誇れるようなことをしたいという思いがさらに強くなりました。将来は、小規模なNPOやNGOの問題意識を広く社会に伝えたり、活動のための資金調達を支援したりする仕組みを考えて、誰一人取り残されない社会の実現に貢献したいと思っています」

学校概要

設立 1903(明治36)年
形態 全日制/普通科/男子校
生徒数 1学年約150人
2021年度入試合格実績(現役のみ)
国公立大は、千葉大、東京海洋大、金沢大、防衛
大学校に4人が合格。私立大は、慶應義塾大、上
智大、中央大、東京理科大、明治大、立教大、早
稲田大などに延べ452人が合格。

先生がご存知の「イノベティブな生徒たち」をご推薦ください!

具体的なお薦め方法は、VIEWnext 公式LINEを通じて9月下旬にお伝えいたします。

※VIEWnext 公式LINEが未登録の方は、右の2次元コードを読み取っていただき、友だち追加をお願いいたします。

